

平成28年度

第1回ふなばし市民大学校運営協議会

日 時：平成28年7月13日（木）14時から

場 所：ふなばし市民大学校 第1教室

午後 1 時 5 6 分開会

○事務局（菅野）

本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

開催に先立ちまして、事務局から報告をさせていただきます。

高齢者福祉課長の土屋委員につきましては公務のため欠席、吉村委員は学校行事のため欠席ということで連絡を受けておりますので、ご報告させていただきます。

4 月に高齢者福祉課長と生涯スポーツ課長の人事異動がありました。また、副会長の大村委員から退任願が出されまして、推薦母体の船橋市いきいき同窓会の会長から後任の推薦がありましたので、メンバーが変わっております。ですので、皆さん自己紹介を兼ねて一言ずつお願いしたいと思いますので、高山会長からお願いいたします。

○高山会長

皆さん、改めましてこんにちは。この名簿にある 6 番目の高山達郎でございます。今、会長をやらせていただいています。それと、市民大学の卒業生でもありまして、船橋市生涯学習コーディネーター連絡協議会の会長もやらせていただいています。よろしく願いいたします。

それでは、順番に、上之園さんから簡単に自己紹介を皆さんしてください。

《自己紹介を行う》

○事務局（菅野）

ありがとうございました。

資料のほうの確認をさせてください。ホチキスどめが 1 つと A 4 の両面刷りが 1 枚ありますのでお願いいたします。

大変申しわけないのですが、次第のほうのタイトルを間違えてしまっておりますので、「平成 2 8 年度第 1 回」ということをご理解いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

あと、お配りしました次第と通知文の次第が変わっております。今現在、大村委員が退任されたことによって副会長が空席だということを失念しておりまして、まず 1 号議案として副会長の選任からお願いしたいと思いますので、次第を追加させていただいておりま

す。

本日1時30分から1時50分まで傍聴の受け付けをしておりましたが、傍聴希望者はありませんでした。今回は傍聴人はおりません。

では、式次第に従いまして順次進めさせていただきたいと思います。

初めに、課長のほうから挨拶をお願いいたします。

○社会教育課長

改めまして、社会教育課長の二野です。

いつもこちらのほうに来て皆さんの活発な意見を聞きまして、私も今回2年目になって、やっとうこういう感じなのかなというのがわかるような形になりました。市民大学校の運営協議会は皆さんそれぞれが本当に市民大学校をよくしたいなという気持ちで活発な意見が出ています。その意見をいただいておりますが、なかなか事務局のほうとしても進まなかったところがあるのですけれども、市民大学校をよくしていかなければならないというのは事務局も常々考えておりますので、またいろいろご尽力のほうをお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

○事務局（菅野）

課長、ありがとうございます。

では、高山会長、お願いいたします。

○高山会長

それでは、新しい委員も加わりまして、市民大学校の運営全般に関しまして有意義な協議を進めたいと思いますので、よろしくご協力をお願いいたします。

それでは、これより議事に入ります。

まず初めに、議事第1号「副会長の選出について」でございます。

副会長であった大村委員が退任され、現在、副会長が空席です。ふなばし市民大学校運営協議会要綱第5条第2項に「会長及び副会長は委員の互選により選出すること」となっております。互選につきましては、指名推薦としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○高山会長

ご異議ないと認めます。ありがとうございます。

それでは、これから副会長の選任を行いたいと思います。

私、会長といたしましては、今までいきいき同窓会に副会長をお願いしていましたので、

上之園委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり、拍手)

○高山会長

ありがとうございました。

では、副会長は上之園委員にお願いしたいと思います。どうぞこちらに。

(上之園委員、副会長席に移動)

○高山会長

一言ご挨拶がありましたら。

○上之園副会長

初めてで力足らずですけれども、大村会長から引き継いだときに、自分はこういう立場にいるよということで、「えっ」という話だったので、ご指名を受けた以上は、拒否できないでしょうから頑張らせていただきます。ご協力よろしくお願いします。

○高山会長

至らぬ会長ですが、サポートをよろしくお願いします。

○上之園副会長

いいえ、ありがとうございます。

○高山会長

次に、議事第2号「平成27年度修了生及び平成28年度入学生について」の報告です。  
事務局より説明をお願いいたします。

○事務局(菅野)

座ったまま失礼させていただきます。

27年度の修了生と28年度の入学生についてご報告いたします。資料の「ふなばし市民大学校応募者・入学者・修了者年度別比較表」というのがありますので、それを見ていただきたいと思います。

2段目です。27年度の修了生は、まちづくり学部が93名、いきいき学部が362名、合計で455名の修了生でした。修了率は95.59%です。26年度より6名ふえております。

次に、平成28年度の入学者数ですが、一番上になります。まちづくり学部は109名、いきいき学部は375名で、両学部で484名となりました。定員に満たなかった学科は、まちづくり学部のスポーツコミュニケーション学科、ボランティア入門学科の2学科です。

なお、応募者数は847名でしたので倍率として1.71倍になりました。

また、入学応募者のアンケートの結果ですが、これも添付させていただいています。最年少が36歳、最年長が86歳でした。最年長の方はパソコン学科3、最年少の方はスポーツコミュニケーション学科で、それぞれ合格されて、今、頑張って勉強していただいております。

また、3回以上卒業されて応募している方が8名、2回が30名、一度卒業されたという方が171名おりました。応募の目的は、「自己啓発のため」が一番多く、続いて「仲間づくりのため」「地域活動に役立てるため」というふうが続いております。

また、ふなばし市民大学校を知ったきっかけは、「広報ふなばしを読んで」が一番でした。昨年開催しましたオープンカレッジに参加しての応募の方は16名、昨年よりも6名増えている状況です。

以上でございます。

○高山会長

ありがとうございました。

ただいまの説明に対しまして、何かご質問、ご意見等がございましたらよろしくお願いたします。

せっかくの機会ですので、何かご質問等がありましたらよろしくお願いたします。

特段よろしいですか。

それでは、次に、議事第3号に移ります。「オープンカレッジの進捗状況について」、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（菅野）

また座って失礼させていただきます。

今日お集まりの委員の方も午前中からオープンカレッジの実行委員会に参加していただいて、午前、午後という形でご迷惑をおかけしておりますけれども、平成26年度と27年度と同じように実行委員会を立ち上げまして、5月18日から月の第2水曜日を基本的な会議の日というふうに決めまして行っております。

実行委員会の構成は、高山会長を筆頭に鳥海委員と船橋市スポーツと健康を推進する会から3名、山須委員と船橋市生涯学習コーディネーター連絡協議会から2名、松本委員とボランティアサロンふなばしから2名、ふなばしマイスター学科修了生が主に構成しておりますふなばし街歩きネットワークから2名、合計13名で構成することになりました。

現在の検討事項等をご説明いたします。開催日は平成28年11月27日（日）ということで決定しました。会場は中央公民館講堂です。講堂が6階にありますので、6階のロビーを利用して卒業生の各団体のブースを設けて、卒業後の活動の案内をするということに決まりました。

講師ですけれども、聖徳大学名誉教授であり、NPO法人全国生涯学習まちづくり協会理事長の福留強先生にお願いして、内諾を得ております。まず、講師に基調講演をしていただきまして、まちづくり学部の卒業生とのパネルディスカッションを行うという形が今回のオープンカレッジになるかと思えます。

詳細は、またこれから13名で構成する実行委員会で決定していきたいと思っております。

以上です。

○高山会長

ありがとうございました。

今日も午前中に第4回目の実行委員会を開きまして、今、事務局から報告がありましたような形で進めております。今回の特色としては、従来の講演を聞きっ放しではなくて、講演プラスまちづくり学科の各卒業生によるパネルディスカッションを1つの目玉としております。

何かご質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。特段よろしいですか。

それでは、ここまで議事第1号、2号、3号が終了いたしました。

それでは、3の「その他」に入ります。まず、事務局のほうでその他について何かありますか。

○事務局（菅野）

事務局は特にありません。

○高山会長

ご発言、ご意見があれば。

松本さん、よろしいですか。

○松本委員

これを見ていると、先ほどの28年度の応募状況というのがありましたけれども、まちづくり学部に関してはほぼ定員に近い形になっています。我々はまちづくり学部というのはとても大事だと思っているのですけれども、その目線でいくと、一次募集のときは、た

しか1学科以外は全部人数が足りなかった、二次募集をかけてようやくこの人数になったということで、本来は一次募集でももう少し人数がしっかり集まるような内容のものなのではないかなというふうに感じています。

また、いきいき学部のほうは倍率が375名に対して727名、1.94倍ということで、パソコンは確かに多いのですけれども、全体を見ても非常に倍率の高い結果になっています。そういう意味でいくと、まちづくり学部にももう少し人が入ってもらえるような何か改善ができないかなということで、これは私のほうで提言している話なので一委員の提言ということで考えていただければいいのですけれども、1枚の紙のほうを見ていただきたいと思います。

1つは、「まちづくり学部」の名称変更に関する検討依頼ということで、オープンカレッジの実行委員の中でも2つの提案がありました。1つはここにもありますけれども、改善の策として、いきいき学部の応募者の中で、第2希望でまちづくり学部を希望している方を積極的にサポートする仕組みが大切なのではないかといいものです。もう1つが、まちづくり学部の名称変更を考えたらどうだという意見もありました。

「ボランティアサロンふなばし」では、当会の企画運営委員会で取り上げ、アンケートをとり、何回も話し合いました。その中でまちづくり学部の名称を変更してみたらどうかという話がありました。どちらかという、今ある4学科の内容から見た時に、「まちづくり学部」という名称が本当にいいのかどうかということも含めて見直してみたいかどうかと。

裏のページにとりあえず6案出させていただいています。現状というのが、特にオープンカレッジのときもそうだったのですが、「まちづくり」というと都市計画とまではいえないにしても非常にハードルが高いという印象を、主に女性の方が持っています。男性の方も、セカンドライフをスタートした方、これも「まちづくり」という言葉に対して非常に抵抗感があるというふうに聞いています。

それと、4学科が持つそれぞれの役目というのが、スポーツコミュニケーションというのは市民によるスポーツの推進、ボランティア入門学科というのは市民のボランティア活動の推進、生涯学習サポートは市民による生涯学習の推進、ふなばしマイスターは市民による船橋の歴史と文化の紹介ということで、まちづくりの一環ではあるのですけれども、共通しているのは市民力の活性化ではないかと。そういうことを背景に、もう少しハードルを低く、誰しものが気にならないようなネーミングで、なおかつ4学科に合ったネーミン

グはないかと。

言うのは簡単だけど、それじゃあ名前を挙げてみろと言うと、なかなかいい答えは出てこないのですけれども、キーワードで一番出てきたのは「市民力」という言葉。これはどうも抵抗なく受け入れられそうだということで、それをうまく利用した学部名に変えられないかというのが、今のところ皆さんからのコメントで出てきた話です。我々が今決められるわけでもないし、ボランティア入門学科の1つのところから出てきたわけではないのですけれども、皆さんから出てきたものは「他」というところも入れてかなりの数が出てきました。この6番は先ほどの4学科のイメージからぴったりする名前、それから、少しでも女性だとかセカンドライフをスタートする人にとって抵抗のない学部名ということの2点に絞ると、この6学部名が候補として挙がってくるということでした。

もちろん、学部名を変えるというのはとても大変なことですし、中にはまちづくり学部だっていいじゃないかという声も全くないわけではないのですけれども、ここにもちょっと書かせていただきましたけれども、私はここでも講義をやらせていただいています。生徒さんに聞くと、最初からまちづくり学部のある特定の学科に入りたいと希望されている方は、別に学部の名称に余りこだわらずに入ってくれるのですけれども、多くの市民の場合は、何らかの形で地域に役立ちたいということで、そのときに「まちづくり」という言葉が、言葉としては抵抗があるというふうに思われている方が多いというふうに感じ取っています。そういう意味で、一度これも議論に上げていただいて検討していただけたらと思って提言させていただきました。

お時間すみません。

○高山会長

ありがとうございました。

オープンカレッジの実行委員会でも同じような話も出ていましたし、それぞれ大事なご意見、ご提案だと思います。この段階で、事務局、何かありますか。

○社会教育課長

すみません、私、午前中のほうの会議に出なかったもので、今初めて聞いたところなのですが、まず、客観的な事実からして、市民大学をよくしたいということで、ご提案は本当にありがたいなと思っています。当然、市長が市民大学校の学長になりますし、教育長が副学長になっていますので、多分、相談に行くと、じゃあ実際はどうかのと、言い方は悪いですけど、まず数値的なことを聞かれると思います。女性から抵抗があるというのです



けれども、例えば何人の集団のうち何人ぐらいからそういう声が上がってきたとか、例えば何人かにアンケートをとったとか、そのあたりが必要となります。

抵抗があるというのですけど、例えば今のお話では都市計画みたいなイメージがあるというのですけれども、別に都市の計画だけではなくて、まちづくりというのはいろいろなソフト面もハード面もあるので、私は余り抵抗を感じなかったので、そここのところの客観的などれぐらいの数なのかというのと、あと、まちづくりに抵抗があるというのは例えばどういうふうな形で抵抗があるかについて、もうちょっと説明していただけるとありがたいなと思うのですけれども。

○高山会長

では、松本委員、お願いします。

○松本委員

母数は非常に少ないです。私の会は約100人いるのですけれども、そのうちの21人が企画運営委員会のメンバーで、そのうち女性は6～7名です。その6～7名の女性からそういう話があったということと、実行委員会でもやはり女性の方からそういう発言も出ていたということで、その程度で市長が動くとも思えないので、何か違う方法で当たらなければいけないのではないかと考えています。

ただ、もう一方で、卒サラしたばかりの人たちも抵抗があるということで、都市計画というほどではないのですけれども、漠然としているとか、4学科の中身と本当にすり合っているのかとか、そういう意味のお話も出ていました。もうちょっと定量的にというお話は仰せのとおりだと思うので、ただ、少なくとも担当レベルもしくは事務レベルで、この方向の検討をするのも1つだなというふうに思っただけであれば、次のステップとして課長さんのおっしゃっているようなことを、皆さんのお力を借りてぜひやってみたいと思うのですけれども、それは少し甘え過ぎなのでしょうか。もうちょっと定量的に当たらないとまずいですか。何かやり方が、これはこうだよ、昔はこうだったよという話でもあれば、それはそれで私も戻って説明はしたいと思っています。

○高山会長

私から言うのも変ですけれども、いきいき学部の場合は仲間づくりとか生きがいという目的がある。まちづくり学部は4学科、授業料は無料だけれども、終わった後に何かまちづくりに貢献しなければいけない。だから、ちょっとかたくて、入りたいんだけどちょっと腰が引けちゃうねと、そういうことが特に女性から多いのかなと。一般論ですけれ

ども、そういうイメージを持っています。

本件はこの程度でいいですか。きょうの段階は。

○松本委員

検討していただけるということで受け取るのか、ちょっと無理ですよということでも、何か答えをある程度もらえれば幸いです。

○三橋委員

いいですか。

○高山会長

どうぞ。

○三橋委員

専門的なことでいうと、やはり「まちづくり」というと、ボランティアの分野ではかなり特定の部分を指すので、これは特定非営利活動促進法の中の分野の中にも「まちづくり」という1つの分野として分類されていますけれども、そういう言葉の表現からすると、ちょっと狭義に受け取る方も当然出てくる。ご指摘にあったように、僕らはボランティアの世界でごく当たり前のように使っていますが、改めて聞くと、一般の方にとって「まちづくり」というとやはりちょっと懸念があるというか、ハードルが高いというか、そんなまちづくりまでの貢献は難しい、でも私は何かできないだろうかという疑念を持たれる可能性もあるかなというふうには思います。ですから、そういう意味ではボランティア入門学科に入ってくる方の多くは既に何かボランティアをやっているとか、何かやってみたいと言ってお入りになってくる方が多いわけですが、確かに何かやってみたいけどまちづくりにかかわるまでのことは、というふうに懸念を持たれる可能性はなきにしもあらずなのかなというのは、今お話を聞いていて思いました。

ですから、ボランティアの分野の分類の中でいったら、まちづくりというのはある意味非常に狭い部分で捉えられる。ボランティア活動のことを知っていると、自分はまちづくりではなくて例えば国際のことをやりたいとか、あるいは環境のことをやりたいというような、まちづくりというふうになるとそこにコネクトしなくなる。ボランティアに興味のある人になると、余計そういう危惧があるかなというのを、ちょっと今お話を伺っていて思いました。一応参考までに。

○高山会長

荒谷委員、手が挙がっていましたけど。

#### ○荒谷委員

まずは、「いきいき学部」とこの4つのグループがありますよね。そこの整合性というか、人に説明するとき、こちらのほうは「いきいき」ですので、ご自分自身がいきいきと自由にできる。もちろん、こういう4つの学科の中に入って、それぞれ自分探しはなさると思うのですけれども、何か4つが一緒になってできるものということで名前をつけるとどうなのだろうなというのは、ちょっと今考えるのですけれども、私自身は入ったときに何もわからなかった。でも、入ってそういうものをいろいろと学ばせていただいて、何か船橋のために役に立ちたい、人のために何かできるものはないかなと、それが自分探しになっていた部分というのがある。だから、ネーミングでそんなに皆さん考えるのかなと、逆に私はね。今の時代はそうなのかなとか。そういうもので入ったからといって、必ずしも皆さんそれに縛られているわけではないのではないかなと思うんですよね。

#### ○松本委員

応募するときの話だと思うんですよ。入っちゃうと皆さんそれなりに染まってくれるんですけれども、今のお話の中で4学科が共通して言えることというのは市民力の活性化だと思います。コー連協（生涯学習コーディネーター連絡協議会）さんも市民力を活性化する、ボランティアの推進の活性化、スポ健（スポーツと健康を推進する会）さんもそうです。皆さん、市民力を活性化して市民力でまちを。ある意味ではまちづくりにつながるのですけれども、人づくりもまちづくりだという話をすれば。ただ、今のキーワードでいくと「市民力」なんです。うちのほうで4つに共通しているのは何なのかなといったときには、「市民力」ですねということで、この6番の中にも「市民力」という言葉が結構入れているのは、そこが皆さんから推薦があった分野だということなのですけどね。ただ、「市民力」というのもハードルが高いよということであれば、これは余り意味がないなど。ハードルを下げることと、4学科に共通している言葉で言えるものもいいねということで。

#### ○高山会長

三橋委員。

#### ○三橋委員

「市民力」という言葉がキーワードとしてあるのでしょうかけれども、4つの学科に共通するのは、市民力というよりは市民活動にかかわってほしいということなのかなという、「市民活動」という言葉のほうが一般的ではあるかなという気はします。ただ、行政がも

ともと市民大学校をつくることから、老人大学が市民大学校に移行するときからかわらせていただいている者として、そういう思いの中から「まちづくり」という言葉はやはりそのときにあったと思うんですね。

○荒谷委員

思いがありますよね、そこから出発ですものね。

○三橋委員

老人大学から市民大学校に移行するときに、その趣旨みたいなことをどこかで検証されるべきことでもあるかなという気も一方ではするんです。ただ、一般的に応募するときに、「まちづくり」ってハードルが高いと言われると、そういう気もなきにしもあらずという気も、先ほどの意見のところからそういうふうには感じます。

○松本委員

個人的にはまちづくりというのは非常に関心が高いので、だから全然抵抗がなかったのですが、みんなから「まちづくり」というのは抵抗がありますと言われたので、はたと目が覚めたんですよ。決めつけている人はいんですよ、スポ健に入りたいという人はいんですよ、ちょうどぎりぎりの人にとってみると、そのところが1つのハードルになるのであれば、「大阪維新の会」が「維新の会」のほうがよかったというのと同じで、ネーミングで少しでも貢献できたらという範疇だとは思っていますけどね。

○高山会長

ご案内のように、16年の新制市民大学校で「いきいき学部」と「まちづくり学部」ができて、まちづくり学部が、今、三橋さんが言われたように、将来、市民力を発揮して市民活動、まちづくりをやっていただきたいという狙いだったのでしょうけれども、昨今、まちづくり学部の応募者が少ないので、その一環としてオープンカレッジもやっています。あと、二次募集も認めたらどうかという意見もあるし、ネーミングも考えたらどうかという意見があるのです。だから、私自身はまちづくり学部といきいき学部で定着しているので、私個人としてはこの名前は好きなんです。好きなんですけれども、そういう意見もあるということで、将来どこかで検討していただければという、その程度の提案も含めて。

○松本委員

今回はその程度の提案なのですけれども、ただ、おっしゃるように、そういう声が今の若い人たちに多いとすると、これも1つの参考資料として生かしていただけたらと思います。

○社会教育課長

ありがとうございます。

私もそのあたりで、当時、新制の市民大学校になったときに、そういうまちづくりにまで発展させていこうという理念を込められたので、私としてはこの理念を大切にしたいほうがいいのかなと、今聞きながら思った次第です。ただ、その一方で、抵抗があるという意見もあるということであれば、例えば募集要項の中で気軽にやってくださいみたいな形で丁寧な説明をしていけば、そこは名前を変えるのではなくて、もうちょっとほかの方法でもいいのではないかなと、私個人的にはそう思った次第です。

○高山会長

その他も含めまして本日の協議会においてご審議いただく議事は以上ですけれども、特にご質問、ご意見がなければ以上で議事を終了させていただきたいと思っておりますけれども、よろしいですか。

それでは、本日の議事につきましては全て終了いたしました。

なお、議事録の署名を三橋委員と山須委員にお願いしたいと考えますが、いかがでしょうか。

(両委員、了承)

○高山会長

それでは、両委員、よろしくお願いたします。

これで本日の協議会は終了となります。委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

最後に、二野社会教育課長から閉会の言葉をお願いいたします。

○社会教育課長

それでは、これもちまして平成28年度第1回ふなばし市民大学校運営協議会を閉会いたします。

皆様、お疲れさまでした。ありがとうございます。

午後2時35分閉会